

[A] 殖産興業の推進－テキスト P60 対応－

明治政府の目標は、一刻も早く日本を近代化させて、欧米列強に追い付くことだ。そのためには、国の経済力を豊かにして、軍隊も強くしなくちゃいけない。そこで、明治政府が打ち出したスローガンが、**富国强兵・殖産興業・文明開化**の3つだったんだ。

まず、一つ目の**富国强兵**というのは、国を豊かにして軍隊を強くすることなんだけど、そのためには兵器や輸出品を製造・生産するための工場が必要になる。そこで、ヨーロッパの近代的な技術などを日本に植えつけようとしたんだ。それが**殖産興業**(殖産興業の「殖」は「植」,「興」は「工」じゃないので気をつけて)。なお、政府の2大目標って聞かれたら、この2つを答えておけばいいんだけど、もしも3大目標って聞かれたら、文化史の内容になる**文明開化**を加えておけばいい(文明開化の「化」を「花」にしないように。開花宣言じゃないんだから)。

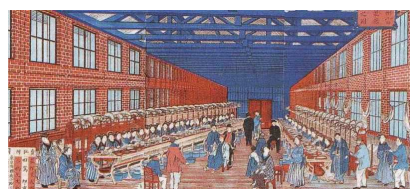
さて、その殖産興業を推進するためには、そのリーダーシップをとるための機関が必要だ。そこで、**1870年**に設置されたのが**工部省**(トップの初代工部卿は**伊藤博文**)と、**1873年**に設置されたのが**内務省**(トップの初代**内務卿**は**大久保利通**)だ。

この2つの省庁が殖産興業を推進していくわけだけど、当然、それらの担当する役割は異なる。工部省の場合は、「工」から連想しやすいけど、**鉄道・電信・鉱山**などの**鉱工業系**を担当していて、だいたい1880年代にはヨーロッパ式の工場導入はある程度成し遂げることになる。そのため、内閣制度が発足した1885年にはお役御免ってことで工部省は廃止になり、それ以降、鉄道・電信・郵便などの事業は**逓信省**に引き継がれていくんだ。

逓

一方の内務省が担当する役割は、農業・商業などの殖産興業なんだけど、内務省の担当する職務は多岐にわたる。そもそも、内務省といえど、1872年の徴兵告諭における「血税」を勘違いして、農民達が血税一揆を起こしてしまったため、そうした治安を維持するために設けられた**警察行政・地方行政**などを担当する省庁だったよね。だから、内務省は**警察行政・地方行政・殖産興業**などのたくさんの権限をもっていて、戦前の省庁の中で最も権力をもつ省庁だったんだ(内務省は戦後の1947年に廃止される)。ただ、ちょっとさすがに仕事が多すぎ。そこで、殖産興業に関しては、1881年に設置された**農商務省**にその管轄を移しているんだ。「農」・「商」務省に管轄が移るのだから、内務省がもともと担当していた殖産興業は、「農業」・「商業」だって考えることができるよね。

そして、この両省が中心となって各地に設立した近代的なヨーロッパ式の工場を**官営模範工場**という。まあ、官営模範工場は小学生の時にも学習したことがあると思うけど、これの代表的なものが、**1872年**に**群馬県**に設立された**富岡製糸場**だ。



[富岡製糸場]

2014年に世界文化遺産にも登録された富岡製糸場は、その中身まで細かく問われる。右絵を見てもらってもわかるよう

に、ずいぶん近代的な工場だね。これは、**フランス**の製糸技術を導入したもので、その糸織り機械もフランスの最新式のものを300台も導入している。だから、その使い方や技術を指導するために、**フランス人技師のブリュナ(ブリュナ)**がその指導にあたったんだ。

このブリュナや、有名な動物学者のモース(アメリカ人)・教育家のクラーク(アメリカ人)などのように、明治政府に雇われた外国人の技術者や学者などを**御雇い外国人**というんだけど、その彼らの待遇とかは長破格だからね。当時の日本人で一番給料もらっていた太政大臣の三條実美の月給が800円だったのに対して、お雇い外国人の中にはそれ以上もらっている人もいて、紙幣を作ったキンダーの月給は1045円だったりしたんだ。

さて、そのブリューナを招いた上で、富岡製糸場は工場^{じょうこう}で働く女工^{にゅうこう}(工女)に土族^{どしゆ}の子女たちを集めて、1872 年から操業を開始するんだ。そして、ここでブリューナから技術を学んだ女工(工女)たちが、その後各地に赴いて、その技術・知識を普及させることに貢献していく。つまり、富岡製糸場で働く子女たちは、技術・知識の普及役を担うので、ある程度の読み書きができる識字率が求められたので、農民の子女とかではなく、士族の子女たちが集められたんだ。なお、こうした女工として働いていた時の様子を記したものとしては、和田^{わだ}(横田^{よこた})英^{えい}の『富岡日記』(1913)が知られているので、余裕があったら押さえておくといいね。

ただし、このような政府の経営する官営模範工場や官営鉱山には問題点がある。それは、官営ゆえに利益よりも国益を重視するため、赤字などが膨らんでしまう点だ(民営企業は黒字を出さないと倒産してしまうが、官営企業(現在は国営・公営と呼ばれる)の場合は国益のためという大義名分があるので赤字を出しても税金で補填される)。例えば、戦後の 1985 年には国営企業であった日本電信電話公社(略して電電公社)・日本専売公社(略して専売公社)が NTT・JT に民営化されたし、1987 年にも国営企業の日本国有鉄道(略して国鉄)が JR 各 6 社に民営化されている。これは、電電公社・専売公社・国鉄という国営企業の赤字が膨大であったため、行財政の負担を減らすために民間に売却して、民間に任せようとしたわけだ。

上記は戦後の歴史だけど、明治時代の頃もやっぱり政府が経営する官営模範工場・官営鉱山は赤字が多かった。そこで、大隈重信^{おおくま しげのぶ}が大蔵卿だった頃(1873~1880)の 1880 年に工場^{こうじょう}下^げ概^{がい}則^{そく}を制定して、「国家の軍勢力に直結する軍需工場は除きますが、政府の経営する官営工場とか官営鉱山を買い取りたい人いませんか〜?」って募集してみたんだ(政府から民間へ官有物を売却することを「^{ばらい}下^げ」という)。

ところが、競争入札や一括払いとか条件が厳しかったため、希望者が少なくて下^げは進まず。しょうがないので、松方正義^{まつかた まさよし}が大蔵卿だった頃(1881~1885)の 1884 年に工場^{こうじょう}下^げ概^{がい}則^{そく}を廃止^{はいし}して条件を緩和してあげた結果、それ以降下^げが本格化していったんだ。

[B] 官営工場・官営鉱山の下^げ—テキスト P60 対応—

それでは、それぞれの官営工場・官営鉱山がどこに売却されていたのかを、テキストで確認してみよう。……いいから、確認してみよう。……目を背けずに確認してみよう。

わあ、いっぱい^{いっぱい}の工場や鉱山が払い下^げられたんだね! 入試問題では、その工場名や鉱山名、また誰に下^げられたのかを記述問題や選択問題で聞いてくるんだよ〜?

……ダイジョブダイジョブ。重要なものをしっかり押さえておけば合格点はちゃんと取れるし、大問 1 つの中で多くても 2~3 問ぐらいしか問われてこないから。あとは、このテキストの構成も有効活用してもらいたい。一般の予備校のテキストでは、ただ工場名・鉱山名・下^げ先が羅列されていることが多いけども、僕のテキストでは、まず工場・鉱山は「軍事」・「鉱山」・「その他」と分野ごとにまとめてあるし、さらに下^げ先も「三菱」・「古河市兵衛」・「三井」で共通するものをだいたい同じ位置に配している。……この配列は僕自身が何度も何度も試行錯誤して、ようやく出来上がった箇所であり、その作成時間には 10 日間を要している。…うそです、10 分で終わりました(笑)。

さて、軍事関係では、江戸幕府の関口製作所を接收した東京砲兵工廠^{とうきょうほうへいこうしやう}と、江戸幕府の長崎製鉄所を接收した大阪砲兵工廠^{おさかほうへいこうしやう}の 2 つがあるけど、これらは陸軍用の兵器を製造するための工場。まあ、つまりは江戸幕府が設立した工場を明治政府が奪い取って、名前を変えたということだね(長崎にあった製鉄所が大阪になっている理由は、長崎製鉄所の機械と労働者をそのまま大阪に移してきたため)。

廠

それに対して、江戸幕府がフランスの援助で建設した横須賀製鉄所(テキスト P56[幕末の動乱]で学習済み)を接収した横須賀造船所は、海軍用の軍艦などを製造する工場だ。この3つは全て軍事関係だし、東京砲兵工廠・大阪砲兵工廠は陸軍省の管轄、横須賀造船所は海軍省の管轄となるので、払い下げされていないことに気をつけてね。

一方で、政府から民間へ払い下げられた造船所が川崎正蔵に払い下げられた兵庫造船所と、三菱に払い下げられた長崎造船所だ。まあ、どちらもはじめは商用船を建造していて、のちに軍艦の建造も行っていくだけだね。なお、兵庫造船所はのちに川崎造船所と改称されて現在の川崎重工業につながるの(神奈川県川崎市とは関係ない)、川崎正蔵は日本15大財閥の一つ(兵庫)川崎財閥の創設者ということだ。現在もバイクの「Kawasaki」は有名でしょ。…え、知らない人いるの? そんな人はバイトで金貯めてバイク買ってみなさい。

バイトで(B) 金貯めて(K) バイク買ってみな(B)、……ヒィア!!!!
これは完全に事故ったね、バイクだけに(ブンブン)。

長崎造船所と同じく三菱に払い下げられたのが、新潟県の佐渡金山、兵庫県の生野銀山、長崎県の高島炭鉱だ。ただし、高島炭鉱ははじめ政府から後藤象二郎に払い下げられたのち、三菱が買収することになるので気をつけてほしい(高島炭鉱はのちに高島炭鉱問題(1888)で再び登場する(テキスト P69 参照[労働運動・社会主義運動])。)

鉱山関係は江戸時代には幕府や諸藩が経営していたものが多く、明治政府が引き継いでいたんだけど、やっぱり赤字続きだったので民間に払い下げられる。その中でも、秋田県の院内銀山・阿仁銀山・阿仁銅山、栃木県の足尾銅山を買取ったのが鉱山王と呼ばれた古河市兵衛だ(足尾銅山はのちに足尾銅毒事件(1901)で再び登場する(テキスト P69[労働運動・社会主義運動]参照)。この人も同じく日本15大財閥の一つ古河財閥(現在の「古河電工(正式名は古河電気工業)」などを傘下に置いた財閥)の創設者ということになる。まあ、東北地方の鉱山を買収したのが古河市兵衛と考えてくれればわかりやすいね(栃木県・群馬県・茨城県は北関東ではなく南東北と呼ぶべきだと僕は思っているの、栃木県の足尾銅山も東北地方に含まれる)。

鉱山関係のラストにあたる福岡県の三池炭鉱ははじめ佐々木八郎に払い下げられたのち、1889年に三井に払い下げられることになるんだけど、三菱に払い下げられた高島炭鉱と混同しないように注意してほしい。だから、この2つはそれぞれ「たかしま」=「みつびし」が4文字同士で、「みいけ」=「みつゐ」が3文字同士と同じ文字数でつながると覚えておくといいかな。

—高島炭鉱・三池炭鉱の覚え方—

「たかしま」=「みつびし」(4文字)

「みいけ」=「みつゐ」(3文字)

さて、軍事関係と鉱山関係の説明が終わったけど、三井に払い下げられた工場がまだ残っている。それが群馬県の富岡製糸場(製糸業は蚕の繭から生糸を生産する産業)と、同じく群馬県の新町紡績所(紡績業は綿花から綿糸を生産する産業)なんだけど、富岡製糸場といえば官営模範工場の具体例として最初に説明したものだよ。そして、下記のテキスト構成を見てみると、先ほど学習した富岡製糸場と同じラインにあることに気づくと思う。これを矢印でつなげてみると、フランスの製糸技術などを導入した富岡製糸場が最終的には三井に払下げられたことにも対応できるようになる。このようなテキストの構成を十分に活用してもらいたい。

—テキスト編(カラー版)—

ex. 富岡製糸場(群馬県に開設された製糸工場)
(1) フランスの製糸技術を導入

富岡製糸場(群馬県)
新町紡績所(群馬県)

政府→三井に払下げ
政府→三井に払下げ

こうした払下げ先の中で、高島炭鉱(三菱に払下げ)・三池炭鉱(三井に払下げ)を除くと、三菱は佐渡金山・生野銀山などの鉱山や長崎造船所といった重工業系を買い取り、三井は富岡製糸場や新町紡績所といった軽工業系を買い取っていることがわかる。つまり、右のような特徴にまとめることができるわけだ。

これらは単純な一问一答や選択問題で問われたりするんだけど、その場合の多くが三菱に払い下げられた長崎造船所・高島炭鉱や、三井に払い下げられた富岡製糸場・三池炭鉱が解答になっている。だから、まずは基本を押さえておくことだね。

＜払下げ先の特徴＞

三菱＝重工業系が多い

ex. 長崎造船所

佐渡金山

生野銀山

三井＝軽工業系が多い

ex. 富岡製糸場

新町紡績所

では、残りの頻度が低いものについて見ていこう。東京都江東区の深川セメント製造所の払い下げを受けた浅野総一郎も、のちに炭鉱や汽船など事業分野を拡大して、日本 15 大財閥の 1 つ浅野財閥を形成していくことになる。まあ、財閥についてはテキスト P68[産業革命]で詳しく説明していくので、それまでは放っておいていいけどね。

あとは、東京都港区三田の旧薩摩藩邸跡に設置された農業試験場で、優良種苗の育成・試作を行った三田育種場(1886 年に木村莊平に払下げ)、内藤新宿(現在の東京都新宿区)に設立された農業学校の駒場農学校(東京大学農学部の前身)、東京都荒川区千住に設立された軍服材料などの羅紗(軍服・コートなどに用いられた厚手の毛織物)を製造した千住製絨所(1888 年に陸軍省に移管)などもあるけど、頻度は低いので余裕があったら押さえて程度でいいかな。むしろ、赤・青ペンの 6 個をしっかりと押さえておいてほしい。

絨

[C] 通信・交通ーテキスト P60 対応ー

近代化を進める上で必要不可欠なものは、電報・郵便・電話などの通信手段や、鉄道・汽船などの交通手段だ。明治時代には、その通信手段・交通手段が各地に設けられていくんだけど、入試問題では「〇〇年に設けられた」とか「最初に〇〇～〇〇間に設けられた」などが問われる。その際の前提として考えてほしいのは、最初に設置するのは人の出入りが多いところや国際上重要なところということ。「鳥取」～「島根」間に鉄道なんてつくっても、そもそも乗る人もいないでしょ？だから、最初に設置されるのは大都市の「東京」・「大阪」や、開港場の「横浜」・「神戸」などがポイントになってくるんだ。

まず、通信手段の 1 つとして、1869 年に東京～横浜間に電信線が架設されて、電信(電報のこと)が開通する(のち 1874 年には長崎～北海道間まで延長され、全国的に開通する)。なぜ、東京～横浜間が最初だったかという、東京が大都市、横浜が日本と外国を結ぶ開港場であったからだ。

さらに、1871 年には海底電線といって、海外との通信のために海底を通るケーブルが長崎～上海間で開通する。この長崎～上海の海底電線を通じてヨーロッパとも接続されて、欧米諸国にも電報を送ることが出来るようになったわけだ。なお、1876 年にスコットランド生まれのベルによって発明された電話は、翌年の 1877 年には日本にも輸入されているので、意外と日本でも早くから使用されている。



〔電信線〕

電報は今でも結婚式での祝電や葬儀での弔電として使われるけど、字数に応じて料金も上がるので「チチキトク スグカエレ(父危篤すぐ帰れ)」のような短めの文章になってしまう。それだったら、

長い文章を書ける手紙などがあれば便利だよね。そこで、^{ききうのしん}郵便頭(郵政の長官にあたる)^{まえじまひそ}前島密の建議で、**1871年**から主要都市である^{とうきょう}東京～^{おおさか}大阪間で開始されたのが郵便制度だ。

江戸時代の飛脚制度は、町飛脚という主に民間業者が中心で、宿場町から宿場町へと手紙や荷物届けるだけで個人配達などはしていなかった。それに対して、郵便制度は官営だし(2007年に民営化され「日本郵政公社」から現在は「日本郵政」になった)、各地に設置されたポストに投函すれば個人配達してくれるよね。こうした郵便制度が「郵便の父」と呼ばれる前島密(右写真の一元切手に写っている人物)の提案によって、江戸時代の飛脚制度にかわって開始されたんだ。

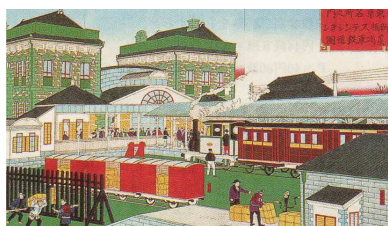


〔前島密〕

なお、最初の頃の郵便料金は距離によって値段が変わる^{きょり}距離制を採用していたんだけど、1873年からは現在と同じように、一定の重さの手紙は全国どこでも同じ値段の^{ぜんこく}全国均一料金制が採用されている。また、国際郵便の交換には^{ばんこくゆうはんれんごう}万国郵便連合という世界的な郵便組織への加盟が必要で、日本は1877年にアジアで初めて加盟している。

さて、電報・電話・郵便といった通信手段が整ったら次は交通手段だ。交通手段といえば鉄道・自動車・船などがあるけど、自動車が日本に輸入されるのは明治時代後半なので、ここでは鉄道の話。

日本人が鉄道を知ったのは、ロシア使節のプチャーチンが鉄道模型を長崎に持ってきた1853年に遡る。さらに、その翌年のペリー再来航に際して、江戸幕府へのプレゼントとして4分の1サイズの鉄道模型が贈られている。まあ、模型というよりは遊園地にある子供用のミニ列車だね。ペリーも「どや？これが欧米の文明やぞ」ってドヤ顔で見せたら、幕府の役人は「乗りたいでござる乗りたいでござる」と大興奮。さすがに4分の1サイズの客車に入ることはできないから、ペリーも「いくら日本人が小さい言うかて、そら無理やで」と制したけど、「客車の屋根の上になら乗れるでござる！乗るでござる！」ってうるさいから乗せてやったら、「動くでござる！動くでござる！」と大はしゃぎ。みんな争って「拙者も乗りたいでござる。乗りたいでござる」と大フィーバーだったそうだ。以上はまあまあ有名な話だけど、これ超可愛くないですか？想像してみてください。チョンマゲの大人がミニ列車にまたがって、シュッポッポーって騒いでいるんですよ？



〔鉄道の開通(新橋駅)〕

てなわけで、日本人はこの時以来、鉄道こそが国家を発展させる基礎であることに気づく。鉄道によって物資・人の移動が一挙に変わるわけだからね。そのため、明治政府も鉄道の敷設のためにイギリスから資金と技術を援助してもらい、イギリス人の^{モデル}モレルの指導のもと、**1872年**に東京の^{しんはし}新橋～^{よこはま}横浜間に初めて鉄道を敷設したんだ(その後新橋駅から東京駅に延長される)。なお、その蒸気機関車を見た人々が「陸蒸気」と呼んだのは、陸上を走る蒸気船だって意味だね。

続いて1874年には日本で2番目に^{おおさか}大阪～^{かんべ}神戸が開通するんだけど、最初の新橋(東京)～横浜間と2番目の大阪～神戸間の共通点ってわかるかな？これは、大都市と開港場を結んでいる点なんだ。東京・大阪という大都市と横浜・神戸という開港場を繋げることによって、物も人の移動も一挙に活発になるからね。

新橋(東京)～横浜と大阪～神戸が開通したら、あとは横浜～大阪までを繋げれば^{とうきょう}東京～^{かんべ}神戸間の東海道本線が全通する(東海道本線は東京～大阪間ではない)。それは、電信が開始された1869年から数えて、ちょうど20年後の**1889年**のことになるんだ。



〔鉄道の開通(東海道本線)〕

＜大森貝塚の発見＞

1877 年に東京都の大森貝塚を発見したことで有名なアメリカ人のエドワード・モースは考古学者ではない。明治政府の要請で、ダーウィンの進化論などを教授するために東京大学にやってきた動物学者である。モースが横浜港に到着して2日後には、「横浜駅」～「新橋駅」の鉄道に乗って文部省のある東京に向かうことになる。モースも、「日本モツイニ文明開化ガ始マッタノデスネ～」とか呟いたのだろう。そして、「横浜駅」～「新橋駅」に向かう汽車の中で窓を眺めていると、「大森駅」を過ぎてすぐ崖に貝塚がむき出しになっていることに気づいた。「ワオ、貝塚デスネ～。」



〔モース〕

ところが日本人に尋ねてみたら「モースさん、貝塚って何ですか？」と返ってきた。それまで日本人は貝塚が縄文時代の遺跡であることを知らなかったのである。「オオ、日本人ハ貝塚知ラナイデスネ。トイウコトハ、私ガ発見スレバ、日本デ初メテノ貝塚発見者ニナレマース」と大喜び。その後、助手や学生を連れて再び汽車に乗って現地調査に訪れ、JR 大森駅付近でそれが貝塚であることを確認したんだ。このことはモースの日記『日本その日その日』に記されている。

陸上交通の手段の1つが鉄道だけど、大量の物資・旅客を運ぶなら、海上交通による船で輸送した方が効率も良い。船だったら人や物の移動に関して、東京・大阪間などの国内輸送だけでなく、海外輸送も行えるしね(このような貨物・旅客を汽船で輸送する産業を海運業という)。その海運業から財をなしたのが、日本4大財閥の1つとなる三菱(三菱会社)を1873年に創業した土佐藩出身の政商岩崎弥太郎という人だ(日本4大財閥は「三井(財閥)」・「三菱(財閥)」・「住友(財閥)」・「安田(財閥)」だけど、越後屋呉服店などで知られる「三井」、伊予別子銅山の経営で知られる「住友」は江戸時代からの豪商だった。それに対して、「三菱」は明治時代に岩崎弥太郎が築いた財閥で、「安田」は明治時代に安田善次郎が築いた財閥)。

三菱の前身は、1870年に設立された九十九商会という土佐藩の海運会社で、東京・大阪・神戸・高知間の輸送を担っていた(のちに全国、さらに海外へと輸送網を拡大する)。それが1871年の廃藩置県後に土佐藩出身の政商岩崎弥太郎が土佐藩から払下げを受けて、民間商社の「三菱(三菱会社)」と社名を改めて(1872年に三ツ川商会、1873年に三菱商会、1875年に三菱汽船会社と改称している)、そして、1874年に行われた征台の役(台湾出兵)や1877年に起きた西南戦争において政府の軍事輸送を請け負って莫大な利益を上げるんだ。



〔岩崎弥太郎〕

上記の三菱のように、政府高官との特別な関係によって便宜供与や営業上の特権を受けて利益を得た資本家のことを「政商」という。代表例としては、江戸時代からの豪商であった三井・住友や、既述した岩崎弥太郎(三菱財閥の創業者)、一代で成り上がった安田善次郎(安田財閥の創業者)・古河市兵衛(古河財閥の創業者)・川崎正蔵(川崎財閥の創業者)・浅野総一郎(浅野財閥の創業者)・大倉喜八郎(大倉財閥の創業者)、官吏出身の渋沢栄一・五代友厚などがいる。その多くが明治後期には「財閥」へと成長していくんだけど、この時期はあくまでも政府と結びついた特権的な資本家「政商」と呼ばれるので気をつけてね(政府と結びついた資本家の「政商」と、多角的な事業展開を行い独占資本を形成した「財閥」の違いについてはテキスト P68[産業革命]で詳しく説明する)。

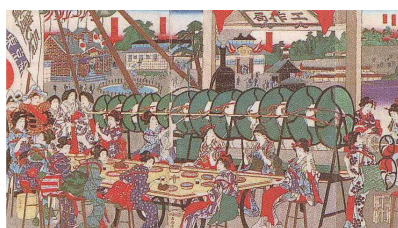
なお、ここまで岩崎弥太郎がつくった三菱汽船会社が独占的に莫大な利益をあげていたため、1883年にはそれに対抗するため、三井が中心となって共同運輸会社という会社が設立された。そして、三菱汽船会社と共同運輸会社では利益を度外視した価格の引き下げ競争が起きるんだけど、そのせいで運賃は以前の1割程まで引き下げられて、このままいくと両社が共倒れしてしまう可能性が出てきてしまった。そこで、政府の調停で三菱汽船会社と共同運輸会社が合併して日本郵船会社が1885年に設立されることになるんだ(現在でも日本郵船(株)は世界トップクラスの海運会社)。

こうした殖産興業を促進するため、**内務省**の主催で**1877年**の**上野公園**で開かれた国内の博覧会が第1回**内国勸業博覧会**だ(内国勸業博覧会は1903年の第5回まで開催された)。

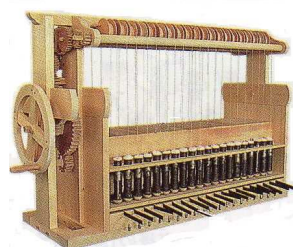
これは、万国博覧会の国内版で、国内の開発品を一挙に集めて紹介することで、更なる産業の発展を狙ったもの。つまり、この博覧会に各地から集まった人たちが「ほお、欧米の技術ってのはすげえものだな。じゃあ、オラの地元に戻ったらこの欧米の機械ってのを導入してみっか」と、地方にも殖産興業が広がっていくことを目的としていたわけだ。

そして、この第1回大会では、様々な発明品などが出品されたんだけど、その中で最高賞を受賞したのが**臥雲辰致**の発明した**ガラ紡**という紡績機械だ。この名称は水力を利用した技術で、ガラガラと音を立てながら糸を紡ぐ紡績機械であることが由来。

なお、全国規模で行われた内国勸業博覧会に対して、殖産興業を推進するために全国各地で開かれた産業技術交流会を**共進会**という。各生産者に生糸・茶・織物などの農産物や製品を出品してもらって、その優劣を決める品評会にあたるものだね。



〔第1回内国勸業博覧会〕



〔ガラ紡〕

〔D〕 文明開化ーテキスト P60 対応ー ※神道国教化政策は説明した内容になるので概説

〔授業解説ー明治維新ー〕で説明したので簡潔に。**1868年**に布告した**神仏分離令**(**神仏判然令**)によって、**神仏習合**(**神仏混淆**)が禁止されたことで仏教排斥運動の**廃仏毀釈**が起きた(その後、浄土宗僧の**島地敷雷**や**哲学館**(のちの東洋大学)を創立した**井上円了**らが仏教復興に尽力した)。さらに**1870年**には**大教宣布の詔**を發布して、**神道国教化の推進**を表明したものの最終的にうまくいかなかった。

さて、本題に入ろう。明治政府は近代化を推進するために掲げたスローガンには、富国強兵・殖産興業だけではなく**文明開化**も含まれていたよね。そこで、西洋式の文明・風俗・慣習などをいろいろと導入していくわけだけど、衣食住などの生活においても、西洋の影響を受けて変わっていく。

衣生活では、1871年に明治政府が出した散髪脱刀令によって(自由に髪を切ればいいし、刀を差さなくてもいいよという法令)、散髪が武士から町人・農民へと普及していく。その結果、丁髷を切った後に、右絵のような西洋風のボサボサ頭の**ざんぎり頭**が増えていくんだ。「ざんぎり頭を叩いてみれば、文明開化の音がする。ちょんまげ頭を叩いてみれば因循姑息の音がする」なんて聞いたことがあるかな？ まあ、ちょんまげは時代遅れ、ざんぎり頭は最先端ってことね。なお、服装に関しては**軍隊・官吏(役人)・巡査・先生**で洋服が広がっていくんだけど、現在のように日常生活で洋服が浸透するのは戦後になる。



〔ざんぎり頭〕

食生活では、肉食・牛乳・コーヒー・パン・バターなどの洋食が都市を中心に食べられるようになっていく。特に牛肉に関しては、もともと日本では仏教の殺生禁止の観点から、肉食はタブー視されていた。農家にとって、牛や馬は食べるものじゃなくて、重要な働き手だったしね。

でも、文明開化による影響で右の絵のように**牛鍋**が流行するんだ(現在のすき焼きのようなもの)。文化史で学習する**仮名垣魯文**が著した『**安愚楽鍋**』では、牛肉を食わない奴は文明開花できない奴とまで書かれている。

魯



〔牛鍋『安愚楽鍋』より〕

住生活では、公共建築においても西洋建築が普及していくんだけど、右の絵はどこの様子だと思う？青森？群馬？鳥取？高知？宮崎？違う。そもそもこんなに人がいるわけなし(笑)。ここは東京の銀座。このお洒落の最先端である銀座通りには煉瓦造の洋風建築が建ち並んで、その銀座通りの路面には人力車や鉄道馬車が走るようになる。

人力車は、京都や東京浅草などではいつでも走っているけど(4000 円ぐらいする)。鉄道馬車というのは下の絵のようにレールの上を馬車が走るもので、これがのちに電車へと変わっていくんだ。



〔銀座通り〕



〔鉄道馬車(左)・人力車(右)〕



〔ガス灯〕



〔電灯〕

また、銀座通りの街路にも、夜でも明るくようにガス灯が灯るようになる(日本で最初にガス灯が設置されたのは横浜の居留地)。ただ、ガス灯には一酸化炭素が含まれるので、明治末期あたりから電力による電灯に代わっていくんだ。そして、その電力を供給する日本最初の電力会社として 1883 年に設立されたのが東京電灯会社という現在の東京電力にあたる会社なんだ。

なお、一般家庭の民家では和風が主体だったものの、今までの行灯に代わって、石油ランプが使われるようになっていく。以前に、センター試験で「一般家庭ではガス灯が使われるようになった」という正誤問題があったけど、それヤバイよ？一般家庭でガス灯を使ったら、一酸化炭素中毒でみんな死んじゃうからね(一般家庭に電灯が普及していくのは大正時代)。

欧米諸国では地球の公転をもとに1年を365日で計算する太陽暦が使用されていた。それに対して、当時の日本では1年を354日で計算する太陰太陽暦(月の満ち欠けの周期から1ヶ月と、地球が太陽の周りを一周する1年から1年を354日で計算する)が使用されていたため、1年で11日のズレが生じてしまう。そこで、太陰太陽暦では3年に1回だけ閏月という余分な1ヶ月を足すことで帳尻を合わせるんだ。

日本では6世紀からずっと太陰太陽暦が使用されていたんだけど、明治時代になって欧米諸国と交渉する時に面倒が生じてしまった。欧米諸国は太陽暦を採用しているけど、日本は太陰太陽暦だから、イチイチ計算し直して日にちを合わせなければいけない。そこで、太陽暦を採用することになったのが1872年のこと。太陰太陽暦の1872年12月3日だった日に、「今日から太陽暦を採用するんで、今日は1月1日になりますよ～」って、いきなり太陽暦に切り替えたわけだ。でも、そんなことを言われてもわからない農村などでは慣れしたんだ太陰太陽暦(旧暦)を依然として使い続けていたんだ。

他にも、1日24時間制とか日曜休日制など、現在では当たり前の制度が導入されるんだけど、君たちが大好きな祝祭日が設けられたのもこの頃なんだ。例えば、神話上の初代天皇とされる神武天皇が即位した2月11日を紀元節(現在の建国記念の日)、明治天皇の誕生日である11月3日を天長節(現在の文化の日)と定めたんだ。ただし、古代の頃に宮中祭祀として重んじられた五節会や、民間の年中行事として江戸幕府が定めた五節供、年中行事などは祝日に定められなかったんだ。